

菩提林

下馬大橋を渡り約 900 メートルの間は菩提林と名づけられ、林の中央を 2 本道が並列して走る。右側は石畳道ではっきりした年代はわからないが、平泉寺が殷賑を極めた頃に衆徒が九頭龍川から手送りで造ったと伝える。石裏には法華経の文字を記し埋めたとも伝える。この道は当寺の学頭（別当）や賓客のみ通行が許され、一般人は一段下の道を通じた。旧参道は日本の道百選に選ばれている。大正 15 年（1926）の河上御前のお開帳にあわせ、野辺自動車は勝山駅からの多くの参拝人を運ぶためバスを走らせた。その際にこの道も改修された。

17 世紀初期に成立した「慶長国絵図」は中世の景観を描いているとされる。そこには平泉寺が描かれ天正の兵火から徐々に立ち直りつつある建物群が描かれている。17 世紀後半の「貞享国絵図」には多くの建物群が描かれ、大門入口から奥の院に向かいかなり広い道が続いている。そこには「菩提林」と記され杉の大木がその両側に見られる。

奥院からは白山に向かい禅定道も描かれている。菩提という言葉は煩惱を断ち切り悟りを得るという意味なので、鬱蒼と茂った林を歩きながら徐々に煩惱を断ち切り、神聖な白山に向かう道として名づけられたのであろう。その歴史の古さをうかがわせる。この禅定道は歴史の道百選に選ばれている。

慶長 8 年には本多富正が「菩提林禁制」を出し伐採等を禁じ、翌年には福井藩から賢聖院に宛て「平泉寺菩提林御寄進状」が出されている。